

十勝のチカラ (地から) No.1 (発行不定期)

発行にあたり

この度、酪青研十勝協議会では、十勝協議会会員を中心とした情報の発信・活動内容の紹介の場として【十勝のチカラ(地から)】を発行する運びとなりました。発行にあたり、ご理解とご協力を賜りました会員の皆様には、まず感謝も申し上げます。

このタイトルに込められた【十勝のチカラ】には、そこに住む魅力ある人々の【チカラ】を、十勝の【地から】発信していく事を願い名付けられたものです。今後はこの会報誌が会員の皆様の情報発信や身近な情報共有の場として少しでも皆様のお役に立てれば幸いです。

発行にあたって、会員の皆様方のより一層のご理解・ご協力を賜りますようお願い申し上げ、私の挨拶とさせていただきます。

2019年9月1日 十勝協議会 会長 高野 修一

こんにちは！酪青研事務局です！

皆様が所属している酪青研十勝協議会は以下の人員体制で運営しております。

●十勝協議会 事務局長：能瀬万里雄 (のせまりお) 45歳

【出身・赴任日】 東京都 / 2018年4月1日 (前任地はなかしべつ工場です)

【趣味】 テニス・ゴルフ・トライアスロン (沖縄宮古島の大会に参加してます!)

【一言】 赴任して1年が過ぎました！今後とも十勝協議会会員の皆様のお力になれるよう運営をサポートしていきますのでどうぞよろしくお願い致します。



●十勝協議会 事務局：大山冬馬 (おおやまとうま) 27歳

【出身・赴任日】 茨城県 / 2016年10月1日 (前任地は幌延工場です)

【趣味】 カメラ・家庭菜園・ゴルフ (ゴルフ歴1年ですがスコアが改善しません!)

【一言】 体重が100kg (≒0.1t) を超えたので最近ランニングを開始しました。

今後とも会員の皆様のお力になれるよう事務局業務に邁進していきます！



大樹工場通信 一旧排水処理場の解体工事進む一

国道236号線沿いに面している排水処理場が移転したことでその役目を終えました。現在、解体工事が進んでおり更地になりつつあります。今年度中には解体工事は終了する予定ですが、今後の活用方法などについてはまだ確定しておりません。今後は環境整備が進み景色が変わっていくことと思われまますので温かく見守って頂ければ幸いです。



発行人：日本酪農青年研究連盟 十勝協議会 会長 高野 修一
事務局：雪印メグミルク(株) 大樹工場内(酪農部 十勝担当)
連絡先：TEL:01558-6-2121 FAX:01558-6-2124



特集 とかちびと 一 十勝の地で生きる人 一

とかちびと特集ではテーマ不問で会員の皆様をクローズアップしお話を伺います

File.01 山下善一さん 「雪印乳業食中毒事件を忘れない」

(南部十勝地方連 大樹単研) 大樹町の山下善一さんは今も鮮明に当時の記憶が残っていると語る。この言葉は雪印メグミルクの「食の責任を強く認識し果していくことを誓う日の活動」の伝承映像撮影時に出た言葉。山下さんは雪印乳業食中毒事件当時、JA 大樹町の酪農部会長を担っていた。「小さな頃から雪印乳業が身近にあり、獣医師を駐在させ酪農民のために汗をかいてきた会社だった。だからすぐには事件の情報を信じられなかった」と振り返る。



「深い信頼関係で繋がっている」

事件があつてからは連日押しかける報道陣に不眠不休で対応を続けた山下さん。そんな中でも雪印が酪農産業を今日まで根幹で支えてくれたという思いがあつたと語る。「大樹工場と酪農民は強い信頼関係で結ばれていた。だからこそ事件当時のショックと怒りは人一倍強かった。でも雪印はちゃんと生き返るという思いも強かった」と語る。事件後、大樹町・生産者は雪印を見捨てることなく支え続けた。「事件は絶対に忘れてはいけない。ただ日本人に合うチーズを作り続ける雪印の技術はトップクラスだと信じている。今も生産者と深い信頼関係で繋がっていることは絶対に忘れてはいけない」と山下さんは笑顔で語る。



File.02 川初伸司さん

「ゆとりと工夫で酪農経営」

(北部十勝地方連 陸別単研)

陸別町の川初伸司さんは昨年の第70回日本酪農青年研究連盟(静岡大会)で優秀賞を受賞した。牛に負担をかけず長命連産することは牛にも・自分にもすべて返ってくる。人も牛もゆとりが大切と語る。昨年の発表後からは、専門誌などの取材などもあり、この日は日本農業新聞社の取材に対応した。現在飼養頭数は82頭で経産牛は47頭。年間乳量は約380tで草地面積は65ha。自動給餌機やICTを導入し牛への負担を軽減させている。



「細やかな個体管理で長命連産」

ストレス軽減や発情発見を目的に設置している放牧地は今年2ha拡大。現在の平均産次数は3.5産と道平均を上回り、牛舎には12産目を控えた牛がいる(右の写真は12産を控えた牛と)。性別別精液を積極的に活用し、受精は開業医に任せている。また子牛にはホクレンの子牛対策事業でカーフハッチャや赤外線ヒーターを購入。個体管理徹底のためにファームノートも導入し繁殖管理を徹底している。これらの結果が総合的に実り計画的に後継牛が確保出来るようになったと笑顔で話す。

※川初さんの発表資料ご希望の方は上記連絡先(大山)にご連絡下さい。



酪農語録 「天地人に感謝」

言葉：雪印乳業初代社長 佐藤貢